

自衛隊の撤退こそ 平和と人道支援の道を開く



イラクで人質とされた5名の日本人の皆さんが無事解放されました。私は率直に喜びと安堵感を感じています。とはいえ、イラク情勢は危険で深刻な情勢を迎えています。そして今、イラクへの人道支援するNGOの皆さんに別の角度から批判がされています。イラクの平和と人道支援について考えてみました。皆さんのご意見をお寄せ下さい。

市会議員 笹田トヨ子

イラクは戦場そのもの

今、イラクはアメリカ占領軍との衝突でイラク全土が戦場となっています。特に中部のファルージャではアメリカ軍の無差別殺戮で、女性・子ども・老人など一般市民が600人以上殺されました。今回の人質事件の背景には、こうした情勢の悪化があります。

解放された理由は 「銃をもっていなかったから」

人質の5人は銃を持っておらず、自衛隊とは関係ない人たち、むしろ長年劣化ウラン弾による白血病などで苦しんでいるイラクの子供達を助ける活動を行ってきたNGOのメンバーであることが幸いしました。

また、フリージャーナリストの安田さんは「日本に対するいいイメージがまだ続いている。広島・長崎の歴史、企業がいい仕事をした歴史・・・この日本の歴史に救われた」と語っています。

このイラク国民の日本に対するいいイメージを崩してきたのは自衛隊派遣です。この責任は誰が負うのでしょうか。

自衛隊撤退に勇気ある決断を

小泉首相は自衛隊派遣の根拠として2つの理由をあげました。「人道支援」と「非戦闘地域」であることです。しかしイラク全土は戦場状態です。そして、今まで実績をあげてきた日本のNGO人道支援活動は、自衛隊派遣で困難な状態に追い込まれています。

一方自衛隊は400億円の税金を使いながら、殆どが自衛隊派遣費用や重装備に使われ、人道支援はNGOの実績の20分の1といった状態です。いまや自衛隊派遣の2つの根拠は失われました。今すぐイラクからの撤退を求めます。



「平和・人権・民主主義を考える」 西濃憲法集会2004に多くの参加を！

毎年5月3日の憲法記念日に行われます西濃憲法集会は、今年で10回目を迎えます。10年前憲法公布50年を目前にして「憲法をもっとくらしの中に」という思いで、西濃の地でも憲法集会を開こうということになりました。当時は、憲法がこんなに危機的な状態におかれるとは予想もしていませんでした。

今、憲法は大変危ない状態にあります。今回のイラク人質事件で明らかのように、自衛隊派遣（派兵）の憲法9条違反に口を閉ざし、被害者の「自己責任」を問う風潮に、今の日本の深刻な状態を感じざるを得ません。

皆さん、勇気を持って、「平和の思い」を行動に出してはみませんか。

今年は憲法週間企画になっています。

●4月25日 午後1時30分より 「平和課外授業～真実（ほんとう）のイラク～」

★場所：大垣駅ビル（アビオ6F）、
★ゲスト：大垣出身のフォトジャーナリスト久保田弘信さんを迎えて

●5月3日 午後2時より 「西濃憲法集会」

★場所：大垣市情報工房5F スイंकホール
★ゲスト：きくちゆみ 講演&フルーツ演奏
「世界を結ぶ グローバルピースキャンペーン」